

今日のフランスにおけるファシズムとそれに対抗する勢力

スーザン・プライス (Susan Price : Green Left) がジョン・ムレン (John Mullen : パリ在住の反資本主義活動家) に聴く、Green Left, 2024年6月14日 脇浜義明訳、大賀英二補訳



写真左：ボードには、「帰ってきたペタン、犬を忘れたのか」とある。1940年から44年までヴァーシー政権を率いたフィリップ・ペタンを指す。(写真：John Mullen)

スーザン・プライス：6月9日の欧州議会選挙では、マリーヌ・ル・ペンの極右政党・国民連合 (RN) が投票総数の30%を得票し、仏大統領であるエマニュエル・マクロンのルネッサンス党の2倍以上でした。RN 進出の背景について、簡単に説明してください。

ジョン・ムレン：3つの要素があります。一つは、この10年間、マリーヌ・ル・ペンは国民連合 RN を普通の政党のように見せる戦略を巧みに行って成功したことです。

昨年12月の世論調査では、ル・ペンの党を「民主主義にとって危険」と考えている人が41%まで減少していました。去年11月、RNは何と「反ユダヤ主義に抗議する行進」に参加し、マクロンからも他の参加者から反対はなかったのです！

RNの議員たちも懸命に活動して、町の集会や運動会やガレージセールに笑顔で参加し、論争を避け、ごく普通の人のように振る舞いました。

核心部に堅固なファシストで占められ、「フランスが帰ってくる」と題した選挙ビラには「あなた方のアイデンティティとあなた方の国境を守る」という排外主義的スローガンを挙げていたという事実があったにもかかわらず、彼らの「解毒活動」は概ね成功したようです。

RNから欧州委員会に立候補した党首のジョルダン・バルデラ Jordan Bardella は、怠惰な難民を援助すると経済が破壊するとか、それがフランス人に敵対する人種主義的暴力の脅威だ等と、根拠のないデマをべらべらとしゃべりました。

二つには、「分割統治」がお家芸であるマクロンにとって、フランスの外にルーツも持つ人々、特にムスリムがフランス的生活様式にとって脅威であると言ったりして、国民連合 RN の強化に貢献したのです。

2年前、マクロンのいわゆる「反分離主義法」（訳注：「イスラム分離主義」や「共和国の敵」のイデオロギーと闘う法案を指す）は、ムスリム就職差別を促進し、ムスリムの人権を擁護する法律団体を禁止して、何人かのイスラム教指導者をデッチあげの罪で国外追放処分にするなど、イスラム嫌悪の火に油を注ぎました。マクロン政府の大臣たちは、フランスの大学が「イスラム左翼」に支配されていると言い張りました。

ル・ポワン *Le Point* やレクスプレス *L'Express* など、既存の大手メディアも「イスラムの脅威」という見出し記事を書いて、RN の成長を助けました。

マクロン政府の大臣たちのなかに、RNの方が左翼政党「不服従のフランス」（La France insoumise、略称：FI, LFI）よりも共和国の価値観に近いという人物もいました。そのうえ、年金や医療や教育や失業手当の削減など、マクロンの厳しいネオリベラル政策が国民の間で不満を高め、極右に票を入れる方向へ追いやったのです。

三つ目の要素は、左翼勢力が国民連合 RN など、極右の成長を食い止める闘いを十分にやらなかったことです。多くのフランスの左翼は人民の生活向上への希望を提供する左翼ビジョンを構築することで、ファシストの根っこを刈り取るうえで十分だと考えているようです。

写真右：6月11日、パリでの反ファシスト達のデモンストレーション。ボードには「人民戦線：我々を裏切ることなかれ！」とある。(Photo: John Mullen)



RN の進出を止める具体的な実践、例えば RN が20人規模で地域集会を開けばそれに反対する50人規模のデモと集会を行うとか、ファシスト票が多い地区で反ファシストへの戸別訪問をする等の実践は、いくつかの地域運動は別にして殆ど行われませんでした。

スーザン・プライス：マクロンが議会解散して総選挙を7月に行います。欧州議会選挙と同じようにル・ペンがまた勝つと思いますか？どうなると思いますか？

ジョン・ムレン：国内での議会選挙は欧州議会選挙とは異なります。ル・ペンには活動家の強力なネットワークがありません。しかしファシストが勝利する危険は現実的なものです。現在、ル・ペンの党は下院では89議席です。下院で絶対過半数を得るためには289議席が必要です。マクロン側は、現時点で友好党の議席を含めても249議席です。だから、法案を通すためにはいつも他の党と協議しなければならなかったのです。

欧州議会選挙でマクロンの得票は低下（22%から14%に落ちた）したので、今度の選挙でも彼はかなりの議席を失い、国民連合RNが議席を伸ばすのではないかと予想されています。それに、保守本流の共和党が瓦解の危機に直面していることから、RNに有利な状況です。

万一、RNが議会で最大グループになるようなことになれば、マクロンはRN党首であるジョルダン・バルデラ Bardella を首相に指名しなければなりません。これは破局です。RNが政権内に入れば、すぐに警察と経済を支配しようとするでしょう。労働者、移民、LGBTなどが痛めつけられる可能性と痛めつける能力が数倍に膨れ上がります。一方、グリーン・プロジェクトや環境規制が大幅に削られるでしょう。

マクロンは「極左と極右」の双方に反対の立場を表明しています。彼が「極左」と言っているのは、FIと呼ばれる「不服従のフランス」の集団であって、FIは75議席を持っています。彼らはガザのジェノサイド問題を国民に分かるように全面に押し出し、富裕税は可能であり、実施せよと要求し、ムスリム嫌悪の人種差別に反対し、労働者階級の生活をあらゆる面で向上させる必要を訴えるなど、良い仕事をしています。この実践のおかげで、先週の日曜日、6月9日の投票では全国的には9%でしかなかったけれど、サン＝ドニー Saint Denis やボビニー Bobigny のような多国籍の移民労働者が多い町で、FIは50%以上の得票を獲得したのです。

マクロンはもう一度国民が「極右の進出を止めるために」自分の党の候補者に投票することを期待したのです。彼は8年間、極右勢力を押し止めてきたと主張してきましたが、ル・ペンやその他のファシストは8年前の得票数よりも数百万票も多く獲得しているのです。

私は選挙の結果を予測しません。多分どの党も過半数を取ることはなく、連立内閣になるでしょう。しかし、誰と誰が連立内閣を組むかは分かりません。



写真左：6月11日のパリで行われた反ファシスト抗議行動 (Photo: John Mullen)

スーザン・プライス：左翼政党は選挙でどうなると思いますか？

ジョン・ムレン：577議席をめぐる選挙は2回行われます。第一回目で50%以上の得票を得た候補者は即座に当選となります。それ以外の方は二回目の選挙になります。二回目の選挙は決選投票で、上位二人、場合によっては12.5%以上の得票の第三位の人で決選投票を希望する人も含めて、行われます。

左翼が競い合っ、一つの町で複数の候補者を立てた場合は、決選投票は右翼と極右の間になる可能性が高くなります。

それゆえ、左翼4党－FI, 緑の党、社会党 SP、共産党－は協議して一選挙区に左翼候補を一人に絞ることに合意しました。この左翼連合（「新人民戦線」）はル・ペンの党の獲得議席数を数十議席ほど減少させると予測されています。

この合意は良いニュースです。下からの圧力、労働組合や ATTAC などの運動体によって形成された左翼政党の統一を求める圧力に押されたのです。月曜に、前述の4党が協議しているときに、会場の外で数百人の若者が「我々若者は人民戦線を要求する！」と叫ぶデモを行いました。また毎日行われている反ファシスト・デモでも、左翼政党の統一を支持するプラカードが目立っています。極左と言われる新しい反資本主義党（Nouveau Parti anticapitaliste）も、他のグループといっしょに、4党の統一選挙戦術を支持する声明を発表しました。

少数派の左翼活動家たちは、この4党の選挙戦術をあまり評価していません。彼らは選挙よりも街頭での反ファシスト大衆行動を大切だと考え、選挙戦術はそれを弱める働きをすると主張しています。これは幼児的であるばかりか、現在の脈絡では危険でもあります。選挙を軽視して、もしバルデラが首相になったら、労働運動や反ファシスト運動が大弾圧を受けることになるからです。

反資本主義を掲げる活動家は、選挙運動に関わるべきです。党の選挙運動に協力せよと言っているのではないのです。大衆的直接運動は党の選挙運動よりも大きな影響を發揮します。すでに4大労組が反ファシスト・デモを今週末に全行的に行う呼びかけを行っています。いくつかの町では高校生が反ファシスト抗議集会を行っています。選挙まで2週間です。この選挙を勝利するため、選挙の後に形成される政府に圧力をかけるために、強力な大衆運動を構築しなければなりません。

スーザン・プライス：左翼政党の FI（不服従のフランス）はどんな街頭大衆運動を行い、選挙で右翼の影響力と闘うために、どのようなプラットフォームを選挙民に示していますか？

ジョン・ムレン：彼らは4党の選挙協定が重要であることを理解していますが、同時に選挙民の票を獲得するためには「我々は国民連合（RN）が嫌いだ」と言うだけではだめであることも理解しています。この2～3日でプログラムをまとめて編集しなければなりません。今週末にそのプログラムを発表する予定ですが、それは多様、かつ複数の政治的勢力に受け入れられるものでなければなりません。

例えば、FIの指導者ジャン・リュック・メラシオンに対する中傷キャンペーン（パレスチナを支持するという理由で、彼を反ユダヤ主義者だと中傷）に加わった社会党の一部の人々とも組まなければならないのです。新人民戦線による当初の宣言では「マクロン主義との完全訣別」が必要であることを謳っていたので、もし新人民戦線が政権を取ったならば、最初の三か月に一連の緊急措置を実行するといった合意があるようです。

実行を約束される主要な措置の一つは、定年を62歳から64歳に引き上げるマクロンの決定を直ちに取り消すことです。定年延長は昨年導入されて、それに反対するストライキは抗議運動が何カ月も続きました。面白いのは、マクロンの定年延長にずっと反対の姿勢を装っていたRNのバルデラ党首が、今週、自分が首相になったら定年延長に反対しないと発言したことです。これは極右が資本家からの支援を必死に求めていることの証左です。今のところ資本家は、RNを支援するのをためらっていません。

欧州議会選挙ではFIは活発に活動し、多くの町で大衆的戸別訪問をやり、参加者で溢れかえる大衆集会も多く行いました。ここ数日間で数千人の若者、ファシストを当選させてはならないと決意した

新しい若者たちが FI のグループに参加しました。労働組合やあらゆる種類の運動体 – グリーンピースから人権連盟などまで – が、バルデラを阻止しようと立ち上がりました。

この選挙は左翼にとって非常に苦しい闘いですが 闘って実現しなければならないものがたくさんあります。欧州選挙のとき投票しなかった人々が2400万人もいます。投票を棄権した人々はほとんどファシズムを嫌っています。私たちは21世紀フランスで初めてとなるような広範で、活力に溢れ、創造的な反ファシストの大衆的盛り上がりを実現するように頑張りましょう。